

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
 熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105
 TEL 096-285-7761
 FAX 096-285-7762
 E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp
 URL http://kumacsw.com/



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくまもと

Certified Social Worker

第79号



発行責任者 深谷 誠了
 編集責任者 田上 緒
 発行月 2024年4月

熊本県社会福祉士会 創立30周年記念式典

ソーシャルワークへの期待を背景に 一歩一歩 進もう！



感謝の言葉を述べる深谷会長

熊本県社会福祉士会の創立30周年記念式典が3月23日、熊本市中央区のメルパーク熊本で開催されました。熊本県や関係団体、日本社会福祉士会や九州各県士会の代表の皆様にご来賓頂きました。

熊本県社会福祉士会は1992年に発足し、現在の会員は約880人。県内の中学・高校へのスクールソーシャルワーカー(SSW)派遣や県ハンセン病問題相談・支援センター「りんどう」の運営などにも取り組んでいます。

熊本県社会福祉士会の深谷誠了会長は、創立以来の感謝の言葉を述べるとともに、30年間の歩みを振り返りました。

日本社会福祉士会の西島善久会長は、熊本県社会福祉士会の歩んできた歴史にも触れながら、「今、誰もが地域で安心して暮らしていくために、さまざまな分野でソーシャルワークを基盤とする支援が求められています。ソーシャルワークへの期待を背景に、

将来ビジョンの実現に向け、一歩一歩進んでまいりましょう。」とご挨拶をされました。

記念式典のあとは、記念講演・記念祝賀会と続き、これまでの会の活動を振り返りながら、これからを思考する場となりました。



挨拶される日本社会福祉士会 西島会長

熊本県社会福祉士会 創立30周年 記念講演会

現代社会のリテラシー～福田村事件から考える～

熊本県社会福祉士会の創立30周年記念式典のあと、社会福祉士学会講演(公益目的事業)として一般の方も含めて記念講演会が開催されました。

昨年公開の映画「福田村事件」で注目を集めた森達也監督をお招きし、厳罰化が進む日本社会についてご講演をいただきました。

オウム真理教の信者に密着したドキュメンタリー映画を製作した森監督は、「オウムによってあおられた不安と恐怖がセキュリティ意識の高揚につながった結果、日本社会が集団化し、異物を排除する厳罰化が進んだ。」と説明されました。

森監督は、「人は不安や恐怖を燃料にして集団になってまとまった時に1人じゃできない事をやってしまう。それがよい方向に行く場合もあるが、悪い方向に行った時にとてつもない残虐な事をしてしまう。それは歴史が証明している。」「そういう都合の悪い歴史から目を背けると成長できなくなり、僕たちは同じことを繰り返す。」などと話され、現代社会では情報を適切に取得、理解、評価し、また過去の過ちも含め、それを活用するリテラシーのスキルが重要であることを強調されました。



講演される森達也監督

また、刑罰が寛容化しているノルウェーの事例を紹介した上で、①幼年期の愛情不足②成長期の教育不足③現在の貧困の「三つの不足」によって犯罪が起きていると指摘され、「社会は罪を犯した人にこれらの不足を補うべきではないか」と投げかけました。

講演会では、森監督と日本社会福祉士会の西島善久会長、県社会福祉士会の深谷誠了会長とのトークセッションもあり、それぞれが考える地域共生社会について軽快なトークが展開されました。

クライアントの意志や権利を代弁し、意思決定を支援する社会福祉士にとって必要な視点に気づかせてくれる貴重な講演会となりました。

森 達也 監督(映画監督・作家)



広島県呉市生まれ。95年の地下鉄サリン事件発生後、オウム真理教広報副部長であった荒木浩と他のオウム信者たちを被写体とするテレビ・ドキュメンタリーの撮影を始めるが、最終的に作品は『A』のタイトルで98年に劇場公開され、さらにベルリン国際映画祭など多数の海外映画祭に招待されて世界的に大きな話題となった。99年にはテレビ・ドキュメンタリー「放送禁止歌」を発表。2001年には映画『A2』が山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞を受賞。映画作品は他に『311』、『Fake』、『i ～新聞記者ドキュメント』がある。

2011年「A3」(集英社インターナショナル)が講談社ノンフィクション賞を受賞。他の著作に、「放送禁止歌」(智恵の森文庫)、「職業欄はエスパー」「いのちの食べかた」「死刑」「クオン・デ～もう一人のラストエンペラー」(角川文庫)、長編小説作品「チャンキ」(論創社)、「すべての戦争は自衛から始まる」(講談社文庫)、「U 相模原に現れた世界の憂鬱な断面」(講談社現代新書)などがある。近著は「千代田区一番一号のラビリンス」(現代書館)。2023年9月に劇映画『福田村事件』を公開。



一般の方も含めて多くの方にご参加いただき開催された創立30周年記念講演会



地域共生社会～私たちの暮らす社会・未来への視点～と題してトークセッションも開催
(左から熊本県社会福祉士会の深谷誠了会長、森監督、日本社会福祉士会の西島善久会長)

2023年度 臨時社員総会 開催

2024年度の重点施策に丸となって取り組もう

3月23日に熊本県社会福祉士会 2023年度臨時社員総会がホテルメルパルク熊本にて開催されました。年度末の忙しい時期にもかかわらず、多くの会員の皆様にご参加いただきました。

深谷誠了会長は、2023年度の事業を振り返り、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、会員の皆様のご尽力により、多くの事業を遂行できたことに謝辞を述べられました。

また、2024年度の重点施策として、①「ソーシャルワークの推進」②「活動基盤の強化」③「専門性の向上」を挙げ、全会員が丸となって取り組んでいくことを呼びかけました。議案はいずれも満場一致で可決されました。

熊本県社会福祉士会は、今後も地域福祉の向上に貢献できるよう、様々な事業を展開していく予定です。



熊本県社会福祉士会 深谷誠了会長

創立30周年 記念祝賀会

たくさんのご参加ありがとうございました



熊本県社会福祉士会 創立30周年 記念祝賀会の様子

災害時支援委員会 かたりば2023

災害支援におけるソーシャルワークを考える

2月12日、広島県、愛媛県、熊本県の社会福祉士会主催で、「かたりば2023」をオンラインで開催し、3県の社会福祉士32名が参加しました。各県のかたりべ(社会福祉士)より貴重な体験談等を語って頂いた後に、グループワークで災害支援への思いやジレンマを語り合いました。

能登半島地震の支援活動が展開されている最中での開催となり、改めて災害支援における“ソーシャルワーク”を考える機会となりました。今回は、かたりべの一人である広島県社会福祉士会の土手悠介会員(所属:江田島市社会福祉協議会)にかたりべになってみての感想や思いを寄せて頂きました。

～ かたりべ になってみて～ 支援者側の「受援力」の必要性を学ぶ

広島県社会福祉士会 土手 悠介氏

この度、私がお話させていただいたのは、約6年前に発災した平成30年7月豪雨災害(西日本豪雨)で江田島市災害ボランティアセンターの担当として、開設・運営時の様子や悩み・思い等についてです。

当時、広範囲の大雨災害で、本市よりも被害がひどい市町も多く、災害ボランティアセンター運営の応援が来るような状況ではなかったため、自分達で部署間の枠を超えてセンター立ち上げを行い、経験したことがない職員が殆どでしたが、しんどい時期に協力し合い運営にあたりました(正直、職員間でもつれてしまったことは多少ありました…笑)。

そうは言っても、後日、全国から支援者が駆けつけてくださり、共に運営して、休めない職員も休むことができました。

今回は、かたりべさんやグループで話した中で、「受援力」というキーワードが頭に残りました。以前、災害の振り返りを行った際にも出たキーワードで、その時は「被災者の受援力を高めて、支援の敷居を下げ受けやすくする」といったような印象でした。

話をする中で、「支援者側の受援力」も復興支援を進めていく中必要で、「支援者を支援する力を借りる」ことが、結果としてより良い被災者支援に結びつくことを学びました。

また、今回の準備をする中、当時の記録等を思い返して、忘れてしまっていることがあると気づかされました。記録は数字や文面など見れば分かりますが、「感情・情景」や「肌感覚」で感じたことは、また別物ではないかと…。

そのようなことを風化させないためにも、定期的にこのような場で「当時はどうだったか?」「他のケースはどうか?」等振り返りをする。そして、発災した場合に支援者・応援者どちらになった場合でも、より良い体制で臨めるよう、今後も「気づき多めに」考えていきたいと思います。

この度は、貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。

むすびに、令和6年能登半島地震で被災された方々のいち早い復興と、安心した生活が送れるよう、お祈り申し上げます。



オンラインでのかたりば2023の様子

群馬県 国立療養所栗生楽泉園 視察報告

群馬県社会福祉士会とネットワークを構築

りんどう相談・支援センター 野尻 裕史

寒さの中にも少しずつ春の暖かい日差しが感じられた2024年3月上旬、群馬県の社会福祉士とネットワークを築き、それをハンセン病回復者及びその家族の方々の支援活動に活かすことを目的として2泊3日の行程で群馬県へ向かいました。

群馬県には全国13カ所の国立療養所の一つ、栗生(くりう)楽泉園があります。栗生楽泉園が所在する群馬県草津町には、明治以前より温泉の効能を求めてハンセン病患者も湯治に訪れていました。

やがて草津温泉が全国的に知られるようになると一般湯治客が増え、居場所を追われたハンセン病患者は様々な偏見差別を受け、療養所での生活を余儀なくされました。

さらに栗生楽泉園には「重監房」と呼ばれる懲罰施設がありました。

重監房の正式名称は「特別病室」と言いますが、その本質はハンセン病患者らが名付けた重監房という呼称が示す通り「重罰に処すための監房」でした。重監房が使用された9年の間、全国から延べ93名が入室と称して収監され、そのうち23名が亡くなったと言われています。

群馬県草津町は私が訪問する前日から当日に掛けて雪が降り続き、道中から除雪作業に励む人々の姿が見受けられました。草津町の湯畑周辺へ着くと若者を中心とした観光客で辺りは賑わい、華やかな街並みと人の群れが氷点下の外気を忘れさせる様子でした。その数km先の山中に栗生楽泉園があります。



群馬県社会福祉士会との交流の様子



跡地に立つ重監房の石碑

栗生楽泉園の入所者の多くは「皮膚病に効く」という温泉の効能を信じて町を訪れた方が多く、現在も栗生楽泉園では湯畑の源泉から温泉を引湯しています。かつては引湯に用いる赤松の木をくり抜く工程も栗生楽泉園の入所者が患者作業として行っており、栗生楽泉園の社会交流会館や重監房資料館ではこれらの歴史を知ることができました。これらの歴史についてさらに詳しく知りたいという方は、関連書籍を揃えておりますので、りんどう相談・支援センターへお問い合わせください。

また、栗生楽泉園への訪問前日は2022年度熊本県社会福祉士会の臨時社員総会でご講演いただいた群馬県社会福祉士会の創立30周年記念フォーラムへお祝いに向かい、祝辞をお伝えしつつ両県社会福祉士会の取り組みについて意見交換を行いました。

2024年4月3日、厚生労働省はハンセン病問題に特化した全国的な住民意識調査を「ハンセン病問題に係る全国的な意識調査報告書」にまとめ公表しています。

各マスメディアも取り上げるように、この報告書は「ハンセン病への偏見差別は現存し、依然として深刻な状況にあることがうかがえた」と結論づけています。

りんどう相談・支援センターは、こうした現状を改善するために現在行われている学習や啓発活動のあり方について様々な角度から検証に取り組んでおり、県民及び当会会員の皆様などへ向けてハンセン病問題の普及・啓発活動を行います。

菊池・阿蘇ブロック研修参加報告

成年後見人等に必要な心構えを学ぶ

広報委員会 篠田 香



熱心に話を聞く参加者

1月27日大津町老人福祉センターで第2回菊池阿蘇ブロック研修会が開催されました。研修には、鬼塚洋弁護士を迎えて「成年後見制度と、これまでの相談事例から思うこと」～弁護士と社会福祉士の二刀流でのかかわりについて～と題して講演がありました。

まず初めに、鬼塚弁護士の自己紹介の中で、社会福祉士の資格を取った理由について話がありました。弁護士として仕事を行う中で、福祉に関わる相談を受ける機会も多く、福祉を学ぶ為に社会福祉士の資格を取得されたとの事でした。実際に成年後見業務も行っており、事例を交えて、・高齢化の状況・成年後見制度の概要・成年後見制度の利用促進・後見人等の基本的職務について講義がありました。

高齢化が進む中、身寄りのない1人暮らしの高齢者が増えており、成年後見制度の必要性が高まっています。しかし、成年後見制

度の補足率は4%と少ない現状であり、社会福祉士として成年後見制度の利用促進に努めていかなければならないという事でした。

また、市民後見人についての説明もあり、これからは、社会一般に支援が出来るようになる事が求められるとの事でした。後見人の基本的な職務として、成年後見申立てを行った側は、選任された後見人から連絡が来るまで不安な気持ちで待っているため、審判がおりたらできるだけ早く連絡する事が必要であると、後見人等の心構えについてお話して頂きました。

最後に成年後見業務は多種多様であり、先輩方や裁判所に相談しながら業務を進めていくよう助言もありました。研修には成年後見業務を行っている方の参加も多く、講義終了後の質疑応答では、成年後見制度に対する具体的な質問や悩み、会員自身の経験談など活発な情報共有も図れ、とても有意義な研修会でした。



ブロック会の役員の皆様



研修講師の鬼塚洋弁護士

information

◆災害時支援委員会よりお知らせ

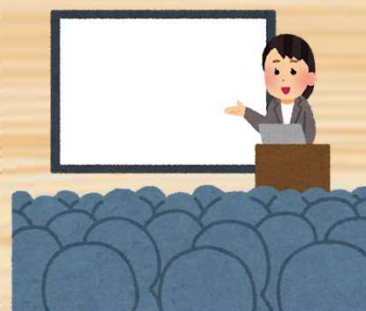
熊本県社会福祉士会では、1月から能登半島地震被災地活動支援金を募集し、3月23日に開催された2023年度臨時社員総会及び創立30周年記念式典・講演会と24日に開催された2023年度基礎研修受講生のつどいでも、会場に募金箱を設置し、多くの参加者にご協力頂きました。

おかげさまで、募金額が54,060円となりました。一旦ここまでの額を今月末に日本社会福祉士会へ送金します。

ご協力頂きました方々へ、感謝申し上げます



募金箱



◆受験対策委員会よりお知らせ

○社会福祉士受験対策講座(予定)

日程:2024年9月1日、9月8日、9月15日、9月29日、10月6日(全5回対面開催)

会場:熊本学園大学

○社会福祉士全国統一模擬試験(予定)

日程:2024年10月下旬または11月上旬の日曜開催

会場:熊本学園大学



職場やお知り合いの方で、資格取得を目指す方にぜひご案内下さい。

申込詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

また、講座の企画運営にスタッフとして協力頂ける会員を募集しております。

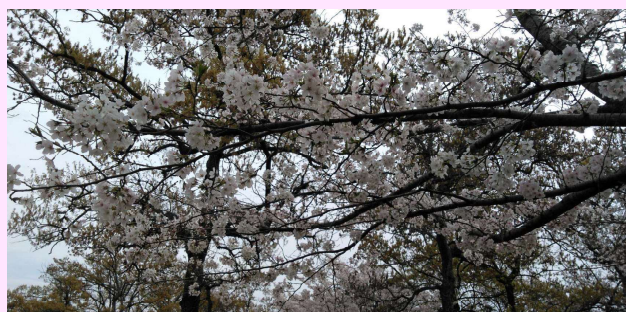
委員会活動に興味がある方はぜひ事務局へお尋ね下さい。

つばやき

職場のメンバーと合志市にある元気の森公園で待ち合わせをして桜の花見をしました。桜の寿命は、約2週間といわれています。その短い期間の中で、天気にも恵まれて外でお花見ができたことをうれしく思います。花見と昼食だけではなく、何か楽しめることがしたいとビンゴゲームを行いました。

景品はあらかじめみんなから千円を集め、そのお金で買える範囲でみんなが好きなお菓子、飲み物、クオカード等を買って、それをまとめたものを準備しました。ビンゴゲームが進んでいく中で、他の人は1枚から2枚以上はめくれているのに、1枚もめくられていない人がいました。それでも、その人が最終的には1番にあがり、みんなびっくりしたという出来事もありました。

綺麗な桜を見て、好きなものを食べて、沢山おしゃべりをして、とても楽しい時間が過ごせました。また、明日から仕事を頑張ろう!!!



広報委員会 古川